石川工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	建築・地域空間形成論

科目基礎情報

科目番号	0002	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	環境建設工学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	適宜プリントを配布する。		
担当教員	村田 一也		

到達目標

1．近代という時代構造を理解し，説明できる。
2．機械論的世界を認識し，説明できる。
3．認識することと制作することとの相関が理解できる。
4．都市理論の系譜について説明できる。
5．建築理論の系譜について説明できる。
6．様式理論の系譜について説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安（優）	標準的な到達レベルの目安（良）	未到達レベルの目安（可）
到達目標 項目1，2，3	近代的世界認識について理解し、説明できる。	近代的世界認識について理解している。	近代的世界認識を知っている。
到達目標 項目4，5	建築・都市理論の系譜について、理解し、説明できる。	建築・都市理論の系譜について理解している。	建築・都市理論の系譜について知っている。
到達目標 項目6	様式理論の系譜について、理解し、説明できる。	様式理論の系譜について、理解している。	様式理論の系譜について知っている。

学科の到達目標項目との関係

創造工学プログラム B1専門(建築学) 創造工学プログラム F1専門(土木工学)

教育方法等

概要	近代から現代に至る建築や都市の形成および理論の系譜を辿り，そこから現代的な建築・都市に纏わる諸問題への解答を得ようとする。建築・都市理論の構築とその背景としてある人間の文化的・社会的・思想的行為との関連性から現在の建築的・都市的状況を把握し今後の在り方を探る手がかりを得ようとする。
授業の進め方・方法	学習した内容の確認，自主的な研究を評価するために，レポートを出題する。 地域・都市計画，西洋建築史，近代建築史，建築デザイン論
注意点	単に知識のみの習得ではなく，計画者の立場に立って考えながら学ぶことが大切です。 新聞・雑誌・ニュース等で見られる関連情報に関心を持ち，自分なりの問題意識を持つことが大切です。 配布するプリントをよく読み，十分理解すること。 成績の評価基準として60点以上を合格とする。 中間試験および期末試験を実施する。 定期試験（80%），レポート（20%）

テスト

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	機械論の系譜１　近代建築理論の状況	機械論の古代から近代への移行について理解している。
		2週	機械論の系譜２　近代建築理論の状況	機械論の古代から近代への移行について理解している。
		3週	身近な機械論　機械論と建築理論	認識と政策について理解している。
		4週	機械論的世界像に基づく社会と建築・都市１	機械論的世界像について理解し、説明できる。
		5週	機械論的世界像に基づく社会と建築・都市２	機械論的世界像について理解し、説明できる。
		6週	機械論的世界像に基づく社会と建築・都市３	機械論的世界像について理解し、説明できる。
		7週	近代の超克と現代の様相	近代理論から現代的思潮への移行について理解できる。
		8週	都市理論の系譜１　都市と建築物	都市理論の系譜について理解できる。
	2ndQ	9週	都市理論の系譜２　都市と建築物	都市理論の系譜について理解できる。
		10週	建築理論の系譜１　建築とその理論	建築理論の系譜について理解できる。
		11週	建築理論の系譜２　建築空間とその理論	建築空間論の系譜について理解できる。
		12週	様式理論の系譜１　建築様式と建築理論	様式理論の系譜について理解できる。
		13週	様式理論の系譜２　建築様式と建築理論	様式理論の系譜について理解できる。
		14週	様式理論の系譜３　建築様式と建築理論	様式理論の系譜について理解できる。
		15週	前期復習	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	試験	ポートフォリオ	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	0	0	0

専門的能力	80	20	100
分野横断的能力	0	0	0